

ロッテ、捜査で資金調達計画に支障

送稿時間 | 2016/07/13 21:44

[連合ニュース TV 提供]

「資金級していない社債発行撤回」

(ソウル=連合ニュース) シンホギョン記者=検察の裏金造成疑惑捜査の余波で、ロッテグループ系列会社の資金調達計画にも支障が出ている。

社債の発行作業を中断したり、延期する事例が頻繁になり、ロッテの資金運用難を懸念する見方もあるが、ロッテは「資金難は全くなく、資金がすぐに急がないので、あえてゆったりとした」という立場だ。

13日、ロッテグループと財界などによると、ロッテ七星飲料は当初、今月3千億ウォン規模の社債発行を推進したが、先月、検察の捜査が本格的に開始された後、この計画をあきらめた。

資本市場では、検察の捜査によるロッテ関連各社の経営の不確実性が大きくなり、債券買収に気軽に乗り出す機関投資家が多くないため、ロッテが仕方なく発行を放棄したという分析が提起されている。

しかし、ロッテの説明は全く違う。ロッテ関係者は「資金が必ず必要としない状況で、あえて投資リスクとして、検察の捜査状況等を投資家に公表してまで社債を急いで発行する理由がなくて、自分の演技した」と主張した。

ロッテ物産も6月末～7月初め1千億ウォン相当の社債を発行しようとして準備作業を中断した。

ロッテ物産の関係者は、「物産株式の30%以上をホテルが持っており、ホテルが上場された時の利点を享受するために社債の発行を計画した」とし「しかし、6月末のホテル上場が失敗に終わっされ社債発行も自然に撤回されたものに過ぎず」と説明した。

市場の一部では、今月ホテルロッテが仁川国際空港の免税店賃借保証金(5千360億ウォン)を担保に、資産担保証券(ABS)を発行しようとし計画も全面的に中断されたという説が

出てきているが、ロッテは「ABS 発行が中断されたことは全くなく、 、 続い推進されている」と反論した。

過去 12 日ロッテケミカルが 3 億ウォン相当の企業手形 (CP) を発行したことも、市場で「社債発行が不如意で証券届出書の提出などの義務がない CP に転換したことはないか」という疑惑を受けている。

しかし、ロッテ関係者は「ロッテケミカルは、昨年 1 兆 6000 億ウォンを超える営業利益を出しただけの資金余力が多めなので、最初から社債発行計画はなかった」とし「ただ短期資金需要のために過去にも何度か CP を発行し、今回もその程度のレベルだ」と釈明した。